

項目別の自己評価表

1. 学校の教育目標

和歌山 YMCA はキリスト教団体として、イエスキリストの生き方にもとづき、人間性が尊ばれ、平和で公正な世界の実現をめざし、「和歌山 YMCA—私たちの使命—」を制定しました。和歌山 YMCA 国際福祉専門学校においても、学校そのものがこの使命を追求していきます。同時に学生自身が「和歌山 YMCA—私たちの使命—」に共感し、実践できる人材として成長できるように援助し、専門分野において十分な貢献を果たせるように、また地域社会ひいては広く世界の「平和と公正」に寄与できる人材を養成したいと考えます。

① ホスピタリティマインドを身につけた介護福祉士養成をめざします。

ホスピタリティとは、互いの命や存在意義を理解し、認め合い、共に生きていくこと、またそれを実践する精神をいいます。共に生きていくということ、人間として相互に理解し共感する態度が求められていると考えます。私たちは、このような価値観、人間観を持つ介護福祉士を養成したいと願っています。このホスピタリティマインドを養成するため「キャラクターディベロプメント(人格向上)」に取り組みます。人間形成に必要とされる価値は様々ですが、その中でも YMCA は特に、Caring (思いやり)、Honesty (誠実さ)、Responsibility (責任感)、Respect (尊敬心) が大切であると考えています。これらは、目新しいものではありませんが、人間の形成に関わる普遍的なものとして取り組んでいきます。

② 高い専門的知識と臨床での能力を養います。

介護福祉に関する研究や取り組みは日々進歩しています。最新の研究成果を授業に組み込むとともに、また常に現場での臨床を意識した授業を行います。施設実習では、現場の実習指導者と緊密な連携を保ちつつ、実習中の指導はもとより、実習前後の指導も十分に行い、即戦力となれる能力を養います。

③ 日本にとどまらず、世界で通用する、介護の世界でのリーダーとなれる人材を育成します。

世界で通用するような人材を養成するため、カリキュラム内容も世界基準(WFOT)を意識したものを展開します。また、YMCA のネットワークを使った研修やボランティアの機会を提供します。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

安定した運営状況を目指し、新入生の定員確保を目標とします。そして、退学者防止対策を教職員一丸となって取り組みます。

学生募集にあたっては、これまでの広報予算を抑えつつ、より丁寧な広報を心がけ、高校生への周知方法を継続します。学校の告知方法として、現在では一番有効となるWebでの情報公開だけでなく、SNSを利用した双方向のコミュニケーションを可能とした手法を今後取り入れて、希望者に対して有効な情報を提供できるように、そして丁寧な対応ができるように工夫します。

退学者防止に向けては、学力の不足する学生に対しての、補習授業や基礎専門科目の定期的な小テストの実施など、1年次より取り組みます。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

評価項目	適切...4,ほぼ適切...3, やや不適切...2,不適切...1
理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野における職業教育の特色は何か)	④ 3 2 1
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④ 3 2 1
理念、目的、育成人材像、特色、将来構想などが生徒保護者等に周知されているか	4 ③ 2 1
各学科の教育目標,育成人材像は,学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④ 3 2 1

① 課題

理念や学校教育目標をすべての教職員が理解し、知識・技術だけではなく「人とかがかわる専門職」として必要な行動様式をも身につけることを目標として、周知を心がけている。介護福祉士は、業界からのニーズも高く、養成は社会的にも期待されている。社会環境の変化、生活様式の変化による体験不足を補い、求められる人間力を養成することが大きな課題である。

② 今後の改善方策

介護福祉士養成施設であることの認知度を上げるためにも今まで以上に丁寧に高校との連携を図り、出張授業などの積極実施や SNS や口コミなど地道に学校の学習範囲を分かりやすく知らしめる努力が継続的に必要である。魅力ある職業として紹介し、活力ある介護の担い手の発掘に努める。

③ 特記事項

学校説明会や入学時のオリエンテーション、保護者会など、あらゆる場面で学校教育目標と育成人材像を丁寧に説明している。資格取得に留まらず、他者への配慮、尊敬、そして自らが誠実さや責任感を育むための経験を学習機会に取り入れ、人とかがかわる専門職に必要な豊かな人間性の成長をめざしている。

(2)学校運営

評価項目	適切...4,ほぼ適切...3, やや不適切...2,不適切...1
目的等に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4 ③ 2 1
運営組織や意志決定機能は,規則等において明確化されているか,有効に機能しているか	4 ③ 2 1
人事,給与に関する制度は整備されているか	④ 3 2 1
教務,財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	④ 3 2 1
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4 ③ 2 1
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4 3 ② 1
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4 ③ 2 1

① 課題

情報システム化による業務の効率化については、教職員全員がノートパソコンを有し、情報の共有やメールシステムなどの整備が進んできているが、教務システムや学生の個人情報データベースなど、情報が守られつつ、誰もが取り扱いやすいシステムの構築には改善が必要である。

② 今後の改善方策

導入にあたっては、個人情報の保護、取扱いなどセキュリティーにも配慮しつつも、多くの教職員の意見を取り入れ、使いやすいシステムにしていく。

① 特記事項

特になし

(3)教育活動

評価項目	適切...4,ほぼ適切...3, やや不適切...2,不適切...1
教育理念等に沿った教育課程の編成実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1
教育理念,育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	④ 3 2 1
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1
キャリア教育実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫開発などが実施されているか。	④ 3 2 1
関連分野の企業関係施設等,業界団体等の連携により,カリキュラムの作成見直し等が行われているか	4 3 2 ①
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ,実技実習等)が体系的に位置づけられているか	④ 3 2 1
授業評価の実施評価体制はあるか	4 3 ② 1
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4 3 2 ①
成績評価単位認定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1
資格取得の指導体制,カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④ 3 2 1
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④ 3 2 1
関連分野における業界との連携において優れた教員(本務兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	④ 3 2 1

関連分野における先端的な知識技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	④ 3 2 1
職員の能力開発のための研修等が行われているか	④ 3 2 1

① 課題

教員の研修は、年間スケジュールに沿って計画的に配置され、専門性の確保、情報交換の場として生かされているが、学校職員が、学校業務を担うにあたり必要な知識習得のための研修は十分ではない。OJT だけではなく、学校業務としての事務処理能力、学生対応法などの研修が必要である。

② 今後の改善方策

学校業務については教職員間での OJT が円滑に進むようマニュアルを作成するほか、学校事務のための研修の機会を設ける。また、教職員間のコミュニケーションを増加させ、学生状況など情報を共有できる体制づくりを考えたい。

② 特記事項

教育課程編成委員会には、業界有識者のほかに本校の学習範囲となる福祉系施設役職者を迎え、職業現場での最新の情報を得ながら、どのように体系的にカリキュラムとして提供すべきか意見を仰いでいる。

(4)学修成果

評価項目	適切…4,ほぼ適切…3, やや不適切…2,不適切…1
就職率の向上が図られているか	④ 3 2 1
資格取得率の向上が図られているか	④ 3 2 1
退学率の低減が図られているか	4 ③ 2 1
卒業生在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4 3 ② 1
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4 3 ② 1

① 課題

就職ガイダンスでは介護福祉の分野で現任者として活躍する卒業生が、自身の就職活動や学生生活での体験などを良きロールモデルとして語ってくれている。教育活動の様々な場面で、

学生自身のキャリア形成に向けて、学生自らが考える機会を持てるようにする必要がある。

② 今後の改善方策

学校評価委員会委員である卒業生たちからも意見をいただきながら、卒業後に現場で活かされた学生生活での学びや経験などを聞き取りながら、教育活動の中で活かせるよう、カリキュラム化したい。

③特記事項

就職率については、継続的に就職希望者の全員が就職を果たしており良好と言える。

(5)学生支援

評価項目	適切…4, ほぼ適切…3, やや不適切…2, 不適切…1
進路就職に関する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
学生相談に関する体制は整備されているか	④ 3 2 1
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4 3 ② 1
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4 ③ 2 1
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4 ③ 2 1
保護者と適切に連携しているか	4 3 ② 1
卒業生への支援体制はあるか	4 ③ 2 1
高校, 高等専修学校等との連携によるキャリア教育職業教育の取組が行われているか	4 ③ 2 1

① 課題

クラスに担任制を導入し、学生の入学から卒業・就職まで個別に相談・対応できる体制は整えている。一方、学生課題の多様化により、教職員に求められるスキルも増えてきている。

② 今後の改善方策

学生一人ひとりの課題(基礎学力不足、学習経験の不足、学習障害など)を早期に明確にし、クラス担任による定期面談のほか、専門職によるカウンセリングなども取り入れ、

多様化した課題を正しく把握するとともに、家庭と、必要に応じた専門機関との連携を持った就学支援を行う。

校友会と協力し、インターネットを利用した卒業生向けのアンケートなどを行いリカレント教育のニーズを把握し提供できるよう進めたい。

② 特記事項

協力団体へ学生支援(奨学金など)を求めていくことを実施中である。

(6)教育環境

評価項目	適切…4,ほぼ適切…3, やや不適切…2,不適切…1
施設設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④ 3 2 1
学内外の実習施設,インターンシップ,研修旅行等について十分な教育体制を整備しているか	④ 3 2 1
防災に対する体制は整備されているか	4 ③ 2 1

① 課題

東日本大震災以後、台風12号による水害など、和歌山県における防災訓練は今まで以上に細かく実施され、県民の防災意識は向上したと思う。当校も県の防災ネットワークの一翼を担い、防災ボランティア団体となっている。教職員、学生の意識だけでなく、物理的な備品整備の一層の充実が求められている。

② 今後の改善方法

災害時、家族への連絡など電話だけの対応には限界があったことを踏まえ、インターネット回線での告知を試行しているが、整備を急がなければならない。現在定期的に行っている避難訓練についても、毎年見直しを図り、防災体制を確実にするように努める。

③ 特記事項

特になし。

(7)学生の受入れ募集

評価項目	適切…4,ほぼ適切…3, やや不適切…2,不適切…1
学生募集活動は,適正に行われているか	④ 3 2 1
学生募集活動において,教育成果は正確に伝えられているか	④ 3 2 1
学納金は妥当なものとなっているか	④ 3 2 1

① 課題

他校の募集広報費に比べると、本校の募集広報費は抑えられている。募集にかける費用よりもむしろ、在学生への学習支援のための費用としている。

② 今後の改善方策

収支バランスの問題もあるが、また学校としての生き残りを鑑み、募集広報費以外の費用削減を図り、充てていきたい。

③ 特記事項

特になし。

(8)財務

評価項目	適切…4,ほぼ適切…3, やや不適切…2,不適切…1
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4 3 ② 1
予算収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4 3 ② 1
財務について会計監査が適正に行われているか	④ 3 2 1
財務情報公開の体制整備はできているか	4 ③ 2 1

① 課題

② 今後の改善方策

③ 特記事項

(9)法令等の遵守

評価項目	適切…4,ほぼ適切…3, やや不適切…2,不適切 …1
法令,専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④ 3 2 1
個人情報に関し,その保護のための対策がとられているか	④ 3 2 1
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4 3 ② 1
自己評価結果を公開しているか	4 3 2 ①

① 課題

自己評価は教職員全員で毎年実施しているが、その振り返りや課題への対応・改善には取り組めていない。また、結果の公開については昨年までは出来ていなかった。

② 今後の改善方策

評価を元に、課題改善に向けての取り組みを教職員全員で取り組むことができるよう、半期ごとに振り返りのための時間をもつ。合わせて、学校関係者や卒業生など、外部の委員を召集し、学校評価委員会を年に2回実施する。

③ 特記事項

特になし

(10)社会貢献地域貢献

評価項目	適切…4,ほぼ適切… 3, やや不適切…2,不適 切…1
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献地域貢献を行っているか	④ 3 2 1
生徒のボランティア活動を奨励,支援しているか	④ 3 2 1
地域に対する公開講座教育訓練(公共職業訓練等)の受託等を積極的に実施しているか	④ 3 2 1

① 課題

教職員は、地域で開催される活動での講師や、施設が主催するプログラムにおいて指導を務めるなど、学校の持つ専門性を地域で活かす取り組みを進めている。学生にも地域でのボランティア活動を推奨し、取り組んでいるが、情報収集や施設側との連絡などに教職員を頼る傾向がある。

② 今後の改善方策

ボランティア参加の機会を継続保持しつつ、今後は全学生に、自らが進んで、意志を持って活動に参加するように、意識を高める指導をしたい。そのためにボランティア活動で得ることのできた体験を一過性のものにしないよう、学生間での報告会の開催などを企画し、発信の機会を創りたい。

③ 特記事項

経営主体となる法人はボランティア団体としての側面も持ち、ボランティア活動の機会には学内外に多分にある。このことは入学前から伝えており、学生たちの期待も高い。改善策にあるように、学生自身の成功体験の1つとなるよう、進んで取り組むべき項目である。